

# 令和2（2020）年度自己評価

—今年度の重点目標について—

評価の基準：A—大変良くできた　B—よくできた　C—やや不十分　D—不十分

## 1 組織的に校務を遂行する。【評価B】

- ・情報共有と共通認識のもとで校務を遂行する 【評価B】  
新型コロナウイルス感染症により、例年と異なる対応が求められることが多くあったが、各部、科、学年が連携を深め、情報を共有できるよう努めた。共通認識を図るための迅速な情報発信や連携についてはさらなる改善が必要である。
- ・協調し、和をもって公務に当たることで教職員の能力を最大限発揮する 【評価A】  
休業期間において、課題の準備、発送はもとより、農場の管理等においても、教職員が協調し、様々な対応に当たることができた。学校再開後の3学年の進路指導においても、今年度は就職、進学が同時進行となった中で、部・科・学年それぞれの立場で、教職員が協調して取り組み、例年に近い実績を出すことができた。

## 2 豊かな人間性を育成する。【評価B】

- ・「白楊三訓」を生活指導の基盤とし、人格の形成を図る 【評価B】  
「白楊三訓」（挨拶励行・時間厳守・整理整頓）の実践について、生徒への継続的な浸透が図られている。ほとんどの生徒は実践できるようになっているが、継続的に指導を要する生徒も一部見られる。今後も一人一人の人格形成を目指して、組織的な指導を展開していく。
- ・地域連携活動を推進し、主体性、課題解決能力を身につけさせ、豊かな人間性を育む。 【評価C】  
専門科目や課題研究をはじめとする各学科の特色ある教育活動の中で、生徒たちの主体性や課題解決能力の育成を図ってきたが、今年度に関しては、各種教育機関等の催事、校外のコンクールや発表会、地域交流活動や校外学習の機会が減少し、これらを目標として取り組んできた生徒にとって物足りなさが残ってしまった。

## 3 基礎学力の定着を図り、専門性を深め、希望進路を実現させる。【評価B】

- ・わかる授業の実践…主体的・体験的な深い学びにつながる授業の実践、授業研究による授業力の向上 【評価B】  
新型コロナウイルス感染症の影響がある中、専門科目における主体的・体験的な取組について、対策を講じながら可能な限り実施し、生徒の理解を深めている。さらに、教員同士で専門性を高め合うことを目指し、授業公開週間等を活用し、教員相互が「授業を見せ合う」取組のさらなる推進が必要である。また授業改善を図るためにも、評価に関する研究、改善を進めていきたい。
- ・資格取得率の向上…資格取得の積極的な奨励と指導の充実 【評価B】  
新型コロナウイルス感染症の影響で、資格試験や各種検定の実施についていくつかの変更があったが、取得の意義を生徒自身が理解し、意欲的に取り組む様子が見られた。今後、国家資格等の取得も含め、各学科の特色となるよう取組を推進していきたい。
- ・学習習慣の確立…家庭学習、自主学習を習慣化するための課題の提示 【評価C】  
確かな学力の定着を図るため、家庭学習の習慣化を意識しながら教科指導を行ってきた。家庭学習については、今年度若干の改善がみられたが、今後も家庭での学習の必要性を生徒が自ら理解するような指導を継続していきたい。

## 4 充実した部活動を実践する。【評価B】

- ・部活動の活性化…部活動等を通して自己理解を促し主体性を育む 【評価B】  
今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で練習や試合など制約が多い中での活動になったが、生徒たちは感染予防対策を講じながら積極的に取り組んでいる。部活動を通して、競技力を高めると同時に、人間性を錬磨し、主体的に活動しようとする意識を育てる指導を今後も継続していきたい。
- ・危機管理の充実…部活動方針に基づき、危機管理の徹底を図り活動環境を整備する。 【評価B】  
各部の部活動方針に基づき、安全で効果的な部活動となるよう活動環境の整備に取り組んでいる。今後も、指導者の資質向上を図るとともに、部活動をとおして豊かな学校生活の実現を図っていききたい。